

忍藩から現代へ  
人と発展



No.69

平成24年12月1日

# 忍郷友会報

松平忠寿翁書

忍郷友会会報 第六十九号 目 次

「二〇一三年 新たな展開に向けて」……………松平 忠昌…………… 1  
 平成24年度 定時総会報告……………小山 博…………… 2  
 「財団法人 忍郷友会とは」………………………… 4  
 平成23年度 事業報告………………………… 5  
 収支決算書・貸借対照表………………………… 8  
 忍郷友会役員名簿………………………… 9  
 第27回 浮き城のまち行田…………………………  
 「少年の主張大会」……………瀬山 文孝…………… 10  
 忍郷友会会長賞作品①……………馬場菜津美…………… 10  
 忍郷友会会長賞作品②……………内田 瑠奈…………… 11  
 読書推進運動について……………大野 年司…………… 13  
 進脩塾活動について……………田代 敬二…………… 14  
 平成24年度 会員名簿………………………… 17

次

平成24年度 事業行事経過メモ………………………… 18  
 第十回全国藩校サミットin水戸  
 江戸の学びー水戸の学びーに参加して……………五十幡和彦…………… 20  
 藩校サミットについて……………矢澤 大和…………… 21  
 「乱世を生き抜いた甲斐姫の生涯」……………丸山 晃…………… 23  
 茶の湯歳時記……………栗原 毬子…………… 25  
 自転車で健康に！……………黒淵 陽夫…………… 26  
 俳句・短歌………………………… 27  
 コラム………………………… 29  
 御名刺掲載欄………………………… 31  
 編集後記……………大谷 純一…………… 34

# 二〇一三年 新たな展開に向けて



財団法人 忍郷友会  
会 長 松 平 忠 昌

新法に基づく公益法人としての新たな年を迎え、順調に各事業が展開されていることは、ご同慶の至りであります。これも偏に会員各位のご協力と関係者の献身的なご尽力の賜物と感謝する次第であります。

明治三十八年（一九〇五年）に発足致しました当会は、全国でも比類のない長寿の財団法人であり、先輩諸氏を始めとする会員各位の揺ぎのない郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられ、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援する事に置き、人材育成の為に自らが出来る事を実施する一燈照隅の運動を展開している所であります。

二〇一四年には、行田市にて「全国藩校サミット」が開催さ

れる予定であり、更に二〇一五年には当会の一一〇周年という節目の年を迎える事になりますので、地元行田における事業活動は益々活発になって参ります。

「少年の主張大会」、「読書推進」及び「進脩塾」（忍藩こども素読教室、論語講座）の事業は継続して実施する事にしています。

青少年の教育・人材の育成は普遍的な命題でありますので、教育支援を当会の事業活動の柱として参る所存です。

課題でありました法令改正に伴う当会「財団法人」の見直しは、監督官庁の指導の下に「公益財団法人」としての認可に目処が付く状況になっていきます。

一方、財源についても、天祥院殿奉讃会と会員各位のご寄附により活動の継続に見通しが付けられるに至っています。とは言いましても、会員各位のご理解とご支援・ご鞭撻は不可欠なものと言えますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

国内では、二〇一〇年に政治体制の激変があつて以来、日本の将来をしっかりと見据える事が出来ないように思われ、経済状況も暗い見通しのため、人心は荒廃し、次世代の事が懸念されま

す。政局も不安定であり、日本を守る政治への早期の復帰が望まれます。

隣国からは、「領土問題」を始めとして対日外交の激変が見受けられるので、米国ほかの首脳との関係強化により、「尖閣諸島」や「竹島」問題、「北朝鮮問題」、等々に対処しなければなりません。日本の政権が齎されている外交や経済環境は大変に厳しい状況にあります。また、世界はもとより、日米共に分岐点を迎えており、これからの一年一

年が重要な時間になると考えます。

当会は、二〇一三年を新たな展開の初年度として、この様な変化・変革の時代にこそ「教育への支援」を軸に、我々は自分達の「するべき事と出来る事」を着実に推進して、将来にも目を向けて行くべきではないかと思っております。

「エリートを育成する教育への支援」を軸に置いて、地元行田から今後の日本や世界を担える人材を輩出させる環境造りを目指し、事業を展開して参りたいと思いますので、宜しくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



# 平成二十四年度 定時総会報告



事務局長 小山 博

平成二十四年六月十七日(日)十三時五十分より行田市内アイトピアに於いて、総会及び懇親会を開催。総会に先立ち、矢澤大和理事の司会により、理事会、評議員会を開き、理事十七名(内委任状七名)が出席、評議員会の出席者は、評議員四十五名(内委任状二十七名)が出席し、両会議とも成立した。

会議は寄附行為第十七条の規定に基づき、松平議長により議事が進行、理事会議事録署名人に田代敬二理事、中川邦明理事。評議員会議事録署名人に諸貫健一氏、大谷純一氏、両評議員を指名、それぞれ議事録署名人を受託した。

審議に入り、「第一号議案 平成二十三年度 事業報告」「第二号議案 平成二十三年度 収支決算報告」について、小山事務局長が内容を説明、保泉欣嗣氏が監事を代表して監査報告がなされ、松平会長が承

認について語り、審議の結果、全員異議なく本案はそれぞれ可決承認された。さらに、「第三号議案 評議員選任について別紙「案」(任期二年)」について、小山事務局長から説明が行われ、全員異議なく提案された評議員は、満場一致で選任された。さらに、理事監事選任について、別紙「役員改選案(任期二年)」を諮ったところ、審議の結果、全員異



議なく、理事改選は承認可決された。さらに、「第四号議案 寄附行為の変更」については、松平会長が寄附行為の変更に係る説明のため、議長を渡邊副会長に交替し、議事を進行、慎重審議の結果、全員異議なく原案通り承認可決された。続いて、十四時三十分より評議員会が開催され、理事会で承認された議案すべて承認可決された。同日十五時三十分より臨時理事会を開き、松平会長、渡邊副会長を選出、承認可決された。

休憩を挟み、十六時より、総会が山本憲作理事の司会により開会された。開会に先立ち、山本理事より物議なく、理事改選は承認可決された。さらに、「第四号議案 寄附行為の変更」については、松平会長が寄附行為の変更に係る説明のため、議長を渡邊副会長に交替し、議事を進行、慎重審議の結果、全員異議なく原案通り承認可決された。続いて、十四時三十分より評議員会が開催され、理事会で承認された議案すべて承認可決された。同日十五時三十分より臨時理事会を開き、松平会長、渡邊副会長を選出、承認可決された。

休会を挟み、十六時より、総会が山本憲作理事の司会により開会された。開会に先立ち、山本理事より物議なく、理事改選は承認可決された。さらに、「第四号議案 寄附行為の変更」については、松平会長が寄附行為の変更に係る説明のため、議長を渡邊副会長に交替し、議事を進行、慎重審議の結果、全員異議なく原案通り承認可決された。続いて、十四時三十分より評議員会が開催され、理事会で承認された議案すべて承認可決された。同日十五時三十分より臨時理事会を開き、松平会長、渡邊副会長を選出、承認可決された。

このあと、来賓として、行田市教育委員会委員長 岸田昌久様、行田商工会議所会頭 小川雅以様、行田青年会議所理事長 井上光広様より祝辞を頂いた。

社会福祉施設
教育・文化施設
オフィス・工場
店舗・商業施設
耐震補強
建物リニューアル

技術と環境の未来を見つめて

## 小川工業株式会社

埼玉県行田市桜町1-5-16 TEL.048-554-4111

## 第二部 記念講演会

「わたしのふるさと、そして会社経営で学んだこと」

講師 前キリンビール社長 松 沢 幸 一 氏



司会 山 本 憲 作 理 事 により、 十七時より、 副会長 渡邊 榮一 理事の

講師紹介により開会。

本年三月までキリンビールの社長であった松沢氏。映像を駆使して、会社経営について語った。

松沢氏は、室町時代の忍城主・成田氏の末裔で、ふる里は館林市、さすがに行田の歴史についても詳しく、

会社経営についても、信頼できるし っかりとしたリーダーがいれば、たとえ小さくとも困難は突破できる。 上司が部下の力を信じ、個々の持つ力を存分に発揮させることが大切であると、実業の世界で一流 会社を率いて活躍されただけに、 評論家とは一味 違う講演内容で、 会員に深い感銘 を与えた。



## 第三部 懇親会



大沢誠評議員の司会で、講演会に 続き、二期会会員青柳有香子さん、 ピアノは大野明子さんで開会。

懇親会の冒頭の三十分間、野ばら 等のすばらしい声とピアノで、会場 を盛り上げた。特に青柳さんは、評 議員青柳憲助氏のお嬢さんで、会員



に知人も多く、会場は華やかさに包 まれた。その後、渡邊榮一副会長の 挨拶、来賓、本多平直衆議院議員、 鈴木聖二埼玉県議会議員、行田市長 代理中村猛行田市教育長の皆様より 祝辞を頂き、続いて、来賓紹介、(財) 忍郷友会に新しく入会された方々の 紹介、旧忍藩主阿部家第二十二代ご 当主(郷友会会員)の乾杯の音頭で 歓談に入り、二十時にすべて終了。

(文責 小山 博)

## (財)忍郷友会 当面の課題

本会は現在、公益法人取得を目 指して、松平会長を先頭に鋭意努 力中である。六月総会では、文 部科学省の指導のもと、「寄附行 為」を大幅に改正した。すなわち、 理事を九名以上十三名以内、評議 員を二十五名以上四十名以内とほ ぼ半減。これは会員数二百五十名 前後にしては多すぎるという指摘 に対応したものである。

さらに、任期を三年から二年に変 更、理事会、評議員会共に、三分 の二以上の出席が求められている。 そして、本年八月二十一日付で、 「寄附行為」の変更が文部科学省 によって認可された。

これから本会は、公益法人取得に 向かって、諸手続を急がねばなら ない。理事、評議員の皆様には、 役員数の減員のため、会費のご負 担の増額を認めて、協力を頂いて いることに心から感謝申し上げます。

(財)忍郷友会は、平成二十七年に は、一一〇周年を迎えます。「人 づくり一一〇周年」には、会員の 皆様と共に、伝統ある本会を次の 世代に引き継ぐ決意でございます。 一層のご支援、ご協力をよろしく お願い申し上げます。

(文責 小山 博)

## 財団法人 忍郷友会 とは・・・

### 創 立

明治四年（一八七一年）の廢藩置県で東京を初め全国に散った旧藩士の人達八十名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、郷友親睦の会として発会式が行われたのが本会の始まりであります。

同年十二月六日には、旧藩主嗣子松平忠壽少尉の日露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて、本会の基礎が固まり、会報第一号が刊行されました。

その会報には、「旧藩士族ノミニ」とどまらず「士農工商ノ別ナク婦人女子ヲ併セテ」会員とする旨の記載もあり、土族のほか忍に所縁の一般の人達も参加して、交流を深めることとなり、会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、最初は東京に遊学する忍町の学生を援助する等、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきています。

### 財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎法学博士を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和昭和十三年に文部省（現文部科学省）より、「教育活動を行う財団法人」として認可を受け、今日至っています。

全国的に見ても郷友会という名前の組織は各地にあります。法人格を有しているものは、今もほとんどないと聞いており、ユニークな会と云えます。

現在の会長は、（奥平）松平忍家十六代の松平忠昌氏です。

### 会 員

本会は明治、大正、昭和、平成の大きな歴史的な試練にもめげず活動が続けており、創立百周年を超えるに至っています。会員の延べ人数は数千人を数えるになり、その方々の活躍の場は、政界、官界、法曹界、経済界、学界、美術芸能、（戦前の）軍部など多岐に亘っています。創立後一世紀、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりです。何処にいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが「忍郷友会」で、現在の会員数は二百三十余名です。

### 目的と事業

今も尚、先人の遺志を受け継ぎ、行田地方を中心に東京、川越など国内県内外の会員有志に支えられて、従来からの会員相互の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りながら、併せてこれからの地域社会や国家に役立つリーダー後継者の人材育成を目的に、社会教育事業と学校教育の支援事業を行っています。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識を持ち、郷土を愛する高い倫理観と品格を備えた人」です。



平成二十三年 事業報告

1 会 議

(1) 総 会

① 定時総会開催

(公務報告、講演会、懇親会)

日 時 平成二十三年六月十九日(日)

参加者八十四名

午後二時～午後八時

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア  
来 賓

衆議院議員

本多 平直様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様

行田市代理教育長

丸山 綱男様

行田市議会議員

吉田 幸一様

行田市教育委員会委員長

岸田 昌久様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄様

行田ロータリークラブ会長代理

持田 朋春様

行田さくらロータリークラブ会長

新井 啓介様

行田青年会議所理事長代理

丸山 靖雄様

埼玉新聞社社長

小川 秀樹様

旧忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

松平忠昌議長より平成二十二年  
の事業および決算、監査について報  
告があった

記念講演

「国難を乗り越え

新時代を築いた忍藩士達」

講師 若松 良一 様

(埼玉県教育委員会学芸主幹)

② 定時総会

(公務報告・賀正会)

日 時 平成二十四年一月二十八日(土)

会 場 霞会館(霞が関ビル三十四階)

来 賓

行田市総合政策部長 (市長代理)

小河原勝美様

行田市議会議員

吉田 幸一様

行田商工会議所名誉会頭

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

人事院総裁

江利川 毅様

本多平直衆議院議員秘書

谷口 真弓様

ものづくり大学学長

神本 武征様

埼玉新聞社社長

小川 秀樹様

旧忍藩阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

(社)行田青年会議所理事長代理

山岸 泰輔様

松平会長より平成二十四年度の事  
業計画及び予算について報告があった

(2) 役員会

① 理事・監事合同準備会

日 時 平成二十三年四月二十五日(木)

午後二時三十分～四時三十分

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成二十二年度事業報告書

(案)について審議

2 平成二十二年度収支決算書

(案)について審議

3 平成二十二年度の事業・決算

に係わる監査

4 平成二十三年六月十九日(日)

総会開催について

5 その他

定時総会日に開催される理事会・

評議員会に提案する審議事項並びに

総会報告事項の決定、総会の運営進  
行等について打ち合わせ

② 評議員会・理事会

日 時 平成二十三年六月十九日(日)

午後二時～三時二十分

会 場 ベルヴィ・イトピア

審議事項

1 平成二十二年度の事業報告が

なされ審議・承認

2 平成二十二年度の決算報告が

なされ審議・承認

3 平成二十二年度の事業に係わ

る監査報告

4 その他

③ 理事・監事合同準備会

日 時 平成二十三年十一月十五日(水)

午後一時三十分～三時

会 場 行田本部事務所 会議室

審議事項

1 平成二十四年度事業計画(案)

について

A「進脩塾」事業計画案につ

いて審議

B「浮城のまち行田少年の主

張大会」事業計画案につ

いて審議

C「読書推進実行委員会」事

業計画案について審議

2 平成二十四年度予算(案)につ

いて審議

3 平成二十四年一月の理事会・

評議員会、総会・賀正会の日

程について小山博事務局長より平成二十四年一月二十八日(土)に開催したいとの提案があり審議

4 その他

④ 評議員会・理事会

日時 平成二十四年一月二十八日(土) 午後三時～三時五十分  
 会場 霞会館(霞が関ビル三十四階) 審議事項

- 1 平成二十四年度事業計画(案)を審議・承認
- 2 平成二十四年度収支予算書(案)を審議・承認
- 3 平成二十四年六月の定時総会日程について
- 4 その他報告事項

## 2 教育奨励事業

① 進脩塾活動  
 目的 私たちが戦後失ってしまった日本人の美質・義・敬・恥・信とか正直・勤勉・親切・謙虚・素直・感謝といったものを経書を学ぶことによって取り戻し、精神文化の興隆に寄与することを目的に運営されている。

定例講座

- 五月「孟子」 荒井 桂先生
- 六月「神話」 田代敬二先生
- 八月「孟子」 荒井 桂先生



九月「孟子」 荒井 桂先生  
 十月「孟子」 荒井 桂先生  
 十一月「孟子」 荒井 桂先生  
 二月「孟子」 荒井 桂先生  
 三月「孟子」 荒井 桂先生

※行田ケーブルテレビにて放映  
 (内容)進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

忍藩子ども塾素読教室の開催

日時 毎月第一、第二、第三土曜日 午前九時三十分～十一時三十分

場所 行田市郷土博物館講座室  
 受講者 行田市内低学年児童(四才～八才まで) 四十七名

講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生

内容 論語・漢詩・古事記の学習

使いやすさを追求/重要改正もこの一冊に  
**ポケット六法** [編集代表] 西田典之 高橋宏志 能見善久

収録法令186件 平成25年版 定価 1890円(税込)

労働契約法・著作権法等の重要改正に対応  
**有斐閣判例六法** [編集代表] 西田典之 高橋宏志 井上正仁 能見善久

Professional 平成25年版 定価 5565円(税込)

**有斐閣判例六法** [編集代表] 井上正仁  
 平成25年版 定価 2730円(税込)

有斐閣 電子書籍 条文と判例をいつでも手軽に「読書する」  
**判例六法 Reading** 詳しくはホームページへ

代表取締役社長 江草貞治  
**株式会社有斐閣**  
 東京都千代田区神田神保町2-17  
 代表 03-3264-1312 FAX03-3264-5030

東京支部素読教室開催  
 (二十三年五月より)

日時 毎月一回土曜日 午後二時～三時三十分

場所 天眼寺(東京上野)  
 受講者 天眼寺関係者 十三名

講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生

内容 論語・漢詩の学習

漢文検定試験の実施

日時 平成二十三年十月二十九日(土)  
 場所 行田市郷土博物館講座室

受験者 二十八名(寺子屋の部初級、中級、上級)

②「第二十五回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

目的 次代を担う青少年の健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催する「浮城のまち行田少年の主張大会」を後援・支援する。

日時 平成二十三年十一月十二日(土)  
 会場 行田市教育文化センター「みらい」ホール

発表者 市内小・中学校児童・生徒、父兄等二百五十名参加、本会、松平 忠昌会

長より記念品を贈呈した。

③ 第十回読書推進学習会

目的 読書は子供の成長の糧である。本を読むことからの動機づけは本に親しむことからである。大人が読み聞かせることにより子供達は本に親しむようになる。その読み手の技能と優しい心を大きく育てる事業を読書推進活動として行っている。

読み聞かせボランティア  
スキルアップ講座と交流会  
（おはなしで遊ぶ）  
日時 平成二十四年二月四日（土）  
午後二時～四時  
会場 行田市男女共同参画推進センターVIVAぎょうだ二階学習室  
講師 藤田浩子先生（語り手・幼児教育者）  
受講者 六十四名

3 運営会議開催

第一回  
日時 平成二十三年十月十一日（火）  
午後三時～五時  
場所 本部会議室  
議題 1 公益法人申請の経過報告  
2 各委員会の状況報告  
3 その他

4 会報68号の発行

会報六十八号を平成二十三年十二月一日に発行  
全会員、市内各小、中、高校、幼稚園、保育園及び素読教室関係者に配付

5 慶 弔

① 叙勲・褒章受章  
黄綬褒章受章 八木原 保様  
② お悔やみ申し上げます  
高橋 貞雄様

（平成二十三年五月十日ご逝去）  
加治 久明様  
（平成二十三年六月八日ご逝去）  
松本 尚様  
（平成二十三年七月三十一日ご逝去）  
柳原 承光様  
（平成二十三年八月三日ご逝去）  
安野 崇雄様  
（平成二十四年一月五日ご逝去）  
吉田 稔様  
（平成二十四年二月七日ご逝去）  
鎌田 実様  
（平成二十四年三月二十五日ご逝去）

6 総会員数

二三八名  
（平成二十四年三月三十一日現在）

財忍郷友会理事 田代敬二氏  
文部科学大臣表彰を受賞される

平成二十四年度社会教育功労者部門



去る十一月十三日（火）秋も深まる東京・霞が関の文部科学省講堂において平成二十四年度社会教育功労者表彰、優良公民館表彰、全国PTA文部科学大臣表彰の合同表彰式が開催されました。全国からご臨席の受賞者を前に村井政務官（田中真紀子大臣は議会中のため）からお祝いのご挨拶を頂きました。

受賞された当財団理事田代敬二氏は、団体活動の中から“街づくりは人づくり”を痛感され、平成二年東洋思想講座「進脩塾」を設立し精神文化作興の風をおこそうと「修己治人」の学として「大学」を学び始め、以来今日まで実に二十二年の永きに亘り、毎月一回第四土曜日の夜、行田市商工センターの一室において一般市民を対象とした東洋思想講座を開いてこられました。その講座は「大学」に始まり、「中庸」「論語」を経て現在は「孟子」を学ぶ途路にあり、その回数はなんと一八〇回に及んでおります。

今般、その地道な活動が高く評価され文部科学大臣ご臨席の下に社会教育功労者表彰を授与されましたことは、単に田代氏一人のみにとどまらず、財忍郷友会の教育事業が認められたこととして喜びを共にしたいものと存じます。

改めてお祝い申し上げます。おめでと



法人名：財団法人 忍郷友会

事業名：事業全体

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日 決算

収支計算書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	200,000	101,286	-98,714
② 会費収入			
正会員会費収入	1,600,000	1,834,000	234,000
③ 事業収入			
総会事業収入	1,000,000	1,099,000	99,000
進脩塾事業収入	950,000	828,386	-121,614
④ 寄付金収入	30,000	0	-30,000
⑤ 雑収入	330,000	295,569	-34,431
⑥ 他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	0	0	0
事業活動収入計	4,110,000	4,158,241	48,241
2. 事業活動支出			
① 事業費支出			
総会事業支出	1,400,000	1,163,705	-236,295
会報発行事業支出	270,000	253,740	-16,260
進脩塾事業支出	950,000	958,386	8,386
少年の主張大会支援事業支出	250,000	257,110	7,110
三端懇話会事業支出	0	0	0
読書推進支援事業支出	80,000	50,000	-30,000
通信運搬費支出	250,000	298,371	48,371
消耗品費支出	150,000	82,698	-67,302
雑支出	80,000	384,872	304,872
事務所賃借料支出	450,000	360,000	-90,000
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	100,000	30,750	-69,250
その他事業支出	0	0	0
② 管理費支出			
事務職員給料支出	840,000	840,000	0
会議費支出	200,000	79,826	-120,174
旅費交通費支出	20,000	0	-20,000
事業活動支出計	5,040,000	4,759,458	-260,542
事業活動収支差額	-930,000	-601,217	-328,783
II 投資活動収支の部	0	0	0
III 財務活動収支の部	0	0	0
IV 予備費支出	100,000	0	100,000
当期収支差額	-1,030,000	-601,217	428,783
前期繰越収支差額	4,590,000	3,954,210	-635,790
次期繰越収支差額	3,560,000	3,352,993	-207,007

(注) 予備費 使用せず

財産目録

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金手許有高	18,060
普通預金	596,920
普通預金	2,587,009
郵便貯金	151,004
(00120-2-4844)	
流動資産合計	3,352,993
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
投資有価証券	4,801,134
基本財産合計	4,801,134
(2) 特定資産	0
(3) その他固定資産	0
固定資産合計	4,801,134
資産合計	8,154,127
II 負債の部	
負債合計	0
正味財産	8,154,127

有価証券の内訳

内訳： 東京電力株式 1,983株 (内登録株 19株)  
東京瓦斯株式 11,253株

支出の部の内訳書

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
事業費			
(総 会 費 用)	1,400,000	1,163,705	236,295
(会 報 発 行)	270,000	253,740	-16,260
(進 脩 塾)	950,000	958,386	-8,386
(少年の主張支援)	250,000	257,110	-7,110
(三端懇話会支援)	0	0	0
(読書推進支援)	80,000	50,000	30,000
小 計	2,950,000	2,682,941	267,059
その他事業費	0	0	0
慶弔費	100,000	30,750	69,250
一般管理費			
(通 信 運 搬 費)	250,000	298,371	-48,371
(事 務 用 品 費)	150,000	82,698	67,302
(交 通 費)	20,000	0	20,000
(雑 費)	80,000	384,872	-304,872
小 計	500,000	765,941	-265,941
会合費	200,000	79,826	120,174
事務所賃借費	450,000	360,000	90,000
業務職員給与	840,000	840,000	0
租税公課	0	0	0
積立基金取崩支出	0	0	0
予備費	100,000	0	100,000
合 計	5,140,000	4,759,458	380,542

貸借対照表

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	18,060	13,683	4,377
普通預金	3,183,929	3,574,883	-390,954
郵便貯金	151,004	365,644	-214,640
流動資産合計	3,352,993	3,954,210	-601,217
2. 固定資産			
(1)基本財産			
投資有価証券	4,801,134	5,200,218	-399,084
(2)特定資産	0	0	0
(3)その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	4,801,134	5,200,218	-399,084
資産合計	8,154,127	9,154,428	-1,000,301
II 負債の部			
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
2. 一般正味財産			
基本財産評価損益等	8,553,211	5,282,175	3,271,036
(うち基本財産への充当額)	-399,084	3,872,253	3,872,253
(4,801,134)	(5,200,218)	(3,872,253)	
正味財産合計	8,154,127	9,154,428	-1,000,301
負債及び正味財産合計	8,154,127	9,154,428	-1,000,301

平成二十四年度(財)忍郷友会役員名簿

理事

松平 忠昌(会長)  
渡邊 榮一(副会長)  
小山 博(事務局長)

確井 勝也

大野 年司

小川 雅以

黒瀨 陽夫

鈴木 秀憲

清水 龍男

田代 敬二

中川 邦明

矢澤 大和

山本 憲作

監事

岩崎 安裕

加藤 力也

保泉 欣嗣

名誉理事

佐藤孝太郎

江草 忠敬

清水 義夫

古市 實

堀 岩夫

宮川 公男

特別会員

阿部 正靖

安藤 敬一

坂巻 敏夫

評議員

青柳 憲助

新井 啓介

新井 誠

飯塚 利男

井上 啓子

五十幡和彦

永島 健雄

江利川 毅

大谷 純一

大久保 毅

大澤 誠

大西 義道

小沢 健一

川辺 秀夫

倉持成一郎

小池 俊輔

小林 晴夫

木暮 照子

小菅 克祥

瀬山 文孝

中島 捷二

橋本 恭一

長谷川雅敏

幹事

幹事 中川 邦明

幹事 宮崎 和雄

幹事 長谷川雅敏

幹事 松岡 由浩

評議員 井上 光広

評議員 綿貫 守男

評議員 渡邊 久記

評議員 横川 福治

評議員 諸貫 健一

評議員 松岡 由浩

評議員 飯島 千裕

評議員 新井 誠

評議員 細井 保雄

評議員 福島 伸悦

評議員 渡邊 久記

評議員 大澤 誠

評議員 東 瑞芳

評議員 副幹事長 大澤 誠

評議員 副幹事長 渡邊 久記

**全国藩校サミット開催のお知らせ**

第11回 鹿児島市(鹿児島県) 決定  
開催日 平成25年3月9・10日(土・日)

第12回 行田市(埼玉県) 予定  
開催日 平成26年7月5・6日(土・日)

次の第12回全国藩校サミット開催地  
武州忍藩藩校 進修館  
〈行田市とはこんなところ〉

- 水攻めの歴史「のぼうの城」伝統と文化豊かな城下町
- 千石の秘密を宿す「古代蓮」の花開く里
- 古墳・金錯銘鉄剣・古代ロマンが息づくまち
- 忍藩こども塾の「論語・漢詩」素読の声が聞こえてくる

快適ガスライフ

**サイカン工業株式会社**

快適な環境づくりをめざして

**(株)清水アーネット**

# 第二十七回 浮き城のまち行田

# 「少年の主張大会」

少年の主張 副委員長 瀬山 文 孝

平成二十四年十一月二十四日(土) 十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十七回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。



ことを市民に 発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、(財)忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十七回目になります。発表者は小学校六年生十九名と中学二年・三年から十名の二十九名の生徒でテーマは家族・チームワーク・原発・将来の夢・東日本大震災・いじめ・オリンピック・政治など多種にわたるテーマで力強く発表していただきました。特に本年も震災をテーマに発表する生徒さんが多かったことはその傷跡の大きさを改めて感じました。来賓挨拶の中で当財団の松平会長からは「第二十七回目の少年の主張大会が、盛大に執り行われたことにお祝いを申し上げます。これからの日本を背負って立つ若人の息吹に触れることが毎年楽しみである。自分の発信しているものが相手にどのように映っているのかどのように捉え

られているのか考えることが大事である。

今日の発表者と会場に来られた皆さんに「志」と「愛」と「学」という三つの言葉を贈るが、志は日本や世界といった自分を取り巻く環境、愛は与えたり貰ったり、想いの中にある。学びは日々有り、新しいことを一つ一つ学んで行くことによって自分自身が何をして生きて行くのか考える事が出来る。この三つの言葉を胸に日々生活していただきたい。」と結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・渡邊副会長・小山理事・田代理事・井上評議員・遠藤事務局の参加をいただきました。

来年も多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

## 忍郷友会会長賞二作品を紹介します

忍郷友会会長賞 小学校の部

### みんなに笑顔を

行田市立北小学校六年 馬 場 菜津美

それは、二〇〇九年四月のことで す。

「生まれたよ」  
祖母の飼っているパピオン犬、なかなか子が犬を産んだのです。夜中、祖母に見守られながら、一時間

に一匹ずつ、小さな命が出てきました。出産は午前六時くらいまで続き、4匹の幼い鳴き声が部屋にはありました。

「わあ、かわいい」  
生まれ立ての本当にほやほやの赤



災地の方々の行動が、日本全体の評価として高く称賛されています。

しかし、被災地以外の場所では被災された方々に大変申し訳ない行動をとってしまった日本人がいたことも事実です。食料品や日用品が思うように買えないことや、節電、計画停電など私達の身の回りでも多少の不自由があり、イライラした人もいると思います。当たり前前の日常が一瞬にして消えてしまうということも今まで考えたことがありましたか？いつも以上に節電を呼びかけられた昨年の夏、戦争を体験したある一人のおばあさんが「私達はお国のために電気を消して過ごすのは慣れているのよ。今回は頭の上に爆弾が降ってくるわけではないんだもの、喜んで消すわ。」と言ったそうです。

生まれた時から物に恵まれ、当たり前のように電気のある生活を送っている私達には決して言える言葉ではないと思います。

「人様に迷惑をかけない。」という日本古来の奥ゆかしい文化が代々受けつがれ、大震災という最悪な形ではあったけれど、改めて日本人のマナーの良さを世界の人々に知ってもらえたのではないかと思います。

個人が集団を守り、集団が個人を守る。とてもすばらしいことですが、そう簡単にできることはありません。



ん。しかし、いずれ社会に出る私達はその責任と自覚を持って歩き出さねくてはなりません。立派な大人になれるかどうかは分からないけれど、人の痛みがわかり、相手の立場になって物事が考えられる人に少しでも近づけたらいいなと私は思います。ここ日本には四季折々の綺麗な景色があり、すばらしい文化があり、美しい日本語があります。この日本の良さ、伝統を汚さぬことは私達の役目であり、私達の未来に託されていると思います。みなさん、私達の方でこの美しい日本を守り、日本のすばらしさを世界の人々にもっともつと発信していきましょう。

# プライミクス株式会社

社長 古市 實  
会長 古市 尚



本社 〒553-0001 大阪府福島区海老江八丁目十六番四十三号  
電話 (0)6-64458175  
FAX (0)6-64458175  
東京支社 〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六番四号  
埼玉支社 〒350-0833 川越市芳野台二丁目八番四号  
名古屋支社 〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目九番十六号  
工場 淀川・武庫川・埼玉・上海

<http://www.primix.jp>

# 小山商事株式会社

社長 小山 博  
会長 小山 喜一郎



本社 行田市埼玉三三五  
TEL 0481559141 (代)  
リカリツシュ旭町店  
TEL 0481556137  
リカリツシュ大井店(熊谷)  
TEL 0481599147  
宝くじ売場持田店  
TEL 0481553147

# 読書推進運動について

読書推進実行委員長 大野 年 司

## 「読み聞かせから語りへ」

読み聞かせボランティア向けのスキルアップ研修も、今回で十回目となりました。今回は、読み聞かせボランティアの皆様との意見交換会を行い、「行田では簡単に学ぶ事の出来ない憧れの講師を」というご意見を採り入れ、自らを「語りべ」と仰



る藤田浩子先生（幼児教育者）を講師にお迎えし、「おはなしで遊ぶ」をテーマに、平成二十四年二月四日（土）に、制限人数をオーバーする申込を頂き、大変中身の濃い研修を実施する事が出来ました。

参加者の皆様より「行田にてこのような有名な先生のご指導を毎年受けることができ、本当に嬉しいで



す」「自らも楽しむことで、面白い雰囲気作りができること」「子供の好きなリズムに乗せて生の声で繰り返し語る事の大切さを学べた」等と、喜びと感謝のお言葉を数多く受けました。

このような地道な運動の積み重ねが読み聞かせボランティアの皆様を通じて、同時に各家庭でおかあさん、おとうさん、おばあちゃん、おじいちゃんを通して、子供達の心に感動を与え、読書の楽しさをまず知って頂くことで、子供達の読書推進に役立って行くものと確信致しております。

# 川柳

小澤 誠邦



花咲かす老木見ては励まされ  
生きている証しを示す趣味一つ  
お気持ちと云われて迷う寄附の額  
立志伝読んだあの頃遠くなり  
肩書きのとれた名刺は異ない  
期待した子等は段々遠くなり  
八百万神がおわずに職がない  
雑草はガレキの下で出番待つ  
なってみて解った傘寿まだ若い  
趣味増やし友も増やして日々楽し

# 進脩塾活動について

進脩塾主幹 田代 敬 二

## 忍藩子ども塾素読教室の現況

進脩塾素読教室は、昨年度（平成二十三年）から行田市教育委員会と共催ということとなり、名称も忍藩子ども塾素読教室と称することになりました。

塾生は教育委員会が募集し、指導は忍郷友会が行うこととなり現



在は、五才から十二才までの児童五十一名が在籍しております。初級組が二クラス、中級組、上級組が各一クラスの四クラスに別れ、毎月第一、第二、第三土曜日午前九時から十二時（正午）までの間、行田市郷土博物館において「論語」「漢詩」の素読朗唱を行っています。運営に当たり次の信条を定めました。

### 忍藩子ども塾信条

一、われわれは先人たちが歴代の間に工夫が施され、語意とリズム感が一致するまでに洗練され磨きあげられた素読という学習法に全幅の信頼を置いてこれを行う。

### 二、教材

初等科（五才〜十二才）を対象に論語（財忍郷友会刊）一〇七章句。

大学（古本大学和訓）漢詩（財忍郷友会刊）四十一篇を教材として使用する。

### 三、意図

論語には、孝、悌、信、仁、愛、を汲みとり、大学からは誠意、正心、忘己利他、の心を培い、漢詩からは喜、怒、哀、楽、の感性を養い、詩人の志に

## 郷土の先哲近藤棠軒先生を顕彰する 市民講座「宋名臣言行録を読む」開催！

近藤棠軒先生は江戸にて若き碩学として既に名声をなしておりましたが、文政七年（一八二四年）その学識を認められ忍藩に儒者として招かれました。時の藩主は松平忠亮公でした。棠軒先生は生来多病の上、刻苦勉勵の質が高く、その結果身体をいぢるしく弱め、翌八年（一八二五年）十一月二十七日この世を去りました。享年三十五才。墓は行田市ながの長久寺にあり、門人神谷光邦選文の墓碑が建っております。

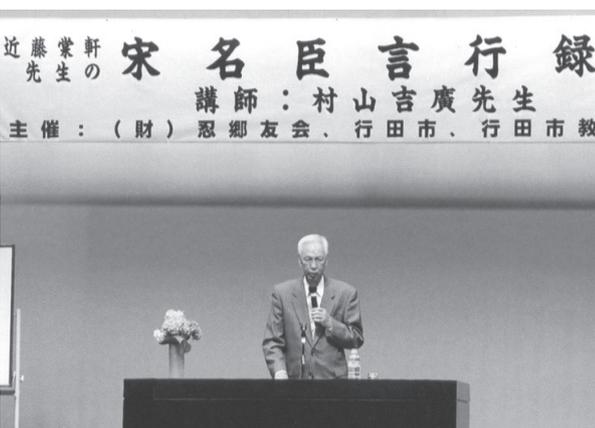
棠軒先生の著書一〇余巻のなか「宋名臣言行録輯釈」前、後四巻（文政元年自序、五年刊）がありますが、今般この書が神田の古書店から見つかり、幸運にも行田市博物館

耳を傾けられるよう工夫をこらす。

右の三条を旨として素読朗唱に励み、余力あらば漢字及びその意味内容の習得につとめ、後年これが加齢とともに深化され、血となり、肉となつて有力なる社会人として大成されることを願うものである。

に収蔵されることになりました。

これを記念して、この郷土の先哲近藤棠軒先生を顕彰する講演会を開



催する運びとなった次第です。(平成二十四年六月二十三日(土)・行田市商工センターにて。講師・村山吉廣先生)

宋代は文治主義により泰平が続きました。南宋の大儒朱熹(朱子)はこれらの名臣の言行録を「世教」に役立たせるため、諸書から抽出して本書を構成したものです。収められた名臣に、趙晋、范仲淹、歐陽修、王安石、司馬光など九七人がおりま

### 行田市立埼玉小学校へ

### 出前出張素読授業始まる

平成二十四年六月から、市立埼玉小学校(長原順子校長)の要請を受けて出前出張素読授業「論語」「漢詩」を行っております。

毎週水曜日の午前八時十分〜三十分までの二十分間で、先ず六年生一組、二組を二人の講師(田代敬二、奥田七寿)が担当し、教材は(財)忍郷友会刊の「論語」、「漢詩」を用いて、基本的には一回に論語(三章)漢詩(一篇)を指導しています。次の週は五年生の指導に移るといいう形で順次下級学年に移り、九月二十六日の出前出張授業で全学年を終了しました。



す。今回の講演会ではその中六人の言行を解釈紹介するに止まりましたが、今後は定期的な講座として事ある毎に開催したいと考えております。

#### 附記

あわせて、忍藩子ども塾素読教室の児童による素読発表会が行われ、論語・漢詩の素読朗唱の迫力には来場者のすべてが圧倒され、盛大な拍手と賛辞が送られました。

一巡後の感想としては、僅か二十分間の授業ではありますが、各学年毎の同年輩の児童とあって声量、態度など均一化されているので、こちらの指導が速やかに浸みわたり予期した以上の成果をあげています。後は各クラス毎の担任の先生方の指導いかんで、埼玉小学校の特性とし

### 寄贈された「木鐸」のいわれについて



今般本会々員岩崎安裕氏及び針生清司氏(別掲)宥座の器製作者両名により忍藩子ども塾素読教室において「是非使って欲しい」との申し出があり「木鐸」が寄贈されました。

木鐸とは、手で振る鈴のことです。「木鐸」と「金鐸」と二つあります。金鐸は金口金舌で武事に用いますが、木鐸は金口木舌で文事に用いました。木でこしらえた舌で叩くと軟らかい音がするので。

て評価されるに至るのではないかと期待しているものです。

十月三日より二巡目の出前授業が始まり、毎週水曜日には埼玉小学校の窓から、「論語」、「漢詩」の素読朗唱の聲が高らかに響いております。

約二千五百年程前の中国では、朝廷で法令が出ると村の役人が木鐸を鳴らして村民を集め、法令を読み聞かせ周知徹底を計ったものです。

このことから転じて教えを施して一世を指導する学者のことをたとえて「木鐸」と呼ぶようになりました。古い中国では孔子のことを指しますが、わが国では昭和の木鐸として安岡正篤先生が広く知られております。



# 孔子の教えを表わす銅器

## 古代蓮「宥座の器」ゆうざを行田市に寄贈

「現代の名工」に認定されている銅板職人の針生清司さん

(七十三才) 館林市尾曳町

が当財団の忍藩子ども塾素読教室の事業に共鳴されて同氏が故郷に行田市の古代蓮の飾りを冠して製作した作品を当市に寄贈することを申し出られた。

(高さ二一〇センチ、幅九四センチ、奥行一二五センチ)

これを受けた当財団松平会長は早速行田市の工藤正司市長に斡旋の労を取り、この程七月二十五日贈呈式が行われ、行田

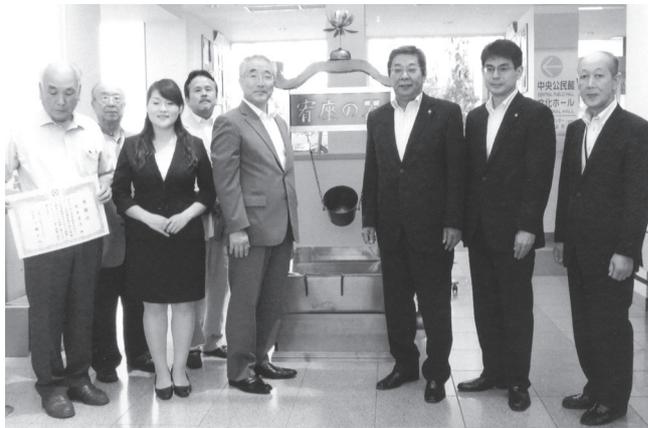
市教育文化センター「みらい」に展示されるに至った。

宥座の器とは、鎖でつるした器が空なれば傾いており、ほどよく注げば水平となり、水を注ぎ過ぎると覆えって水がこぼれる器です。

孔子がこの宥座の器を見て弟子たちに「満ちて覆えらない者はいない」と教訓し、人生におけるすべての事において無理をすることや、満ち足りる事を戒め、中庸の徳、謙譲の徳の大切なことを教えたといわれるものです。



百聞は一見にしかず  
一度お試しを



当財団では、この貴重な器を寄贈された針生清司氏に対する謝礼の意味をこめて同氏製作によるレプリカ(高さ四十三センチ、幅三十四センチ、奥行き五十七センチ)二基を購入して「孔子の故事に倣い、宥座の器を実験しながら、楽しみつつ人材教育に役立てて欲しい」旨を申し添えて行田市に寄贈いたしました。

(文責 田代敬二)

# 短歌

## 特別寄稿



木嶋 清

古墳群桜の花に酔ひ初める

蛇穴を出て車列見回す

大古墳持ち上げている春田どち

核の恐怖を知らぬ世紀よ

山笑う利根の渡船のじぐざぐに

ピカリと光る白鷺一羽

平成二十四年度 会員名簿

法人会員

(株)シンセイ開発 新井 誠  
 (有)羽生モーターズスクール 五十幡和彦  
 医療法人 葦の会 石井 義則  
 (株)有斐閣 江草 忠敬  
 小川工業(株) 小川 雅以  
 大野建設(株) 大野 年司  
 税理士法人大久保会計 大久保 毅  
 公認会計士 奥貫 健一  
 (有)中央百貨店 川辺 秀夫  
 ガクヤ(株) 小池 俊輔  
 東旭(株) 小菅 克祥  
 小山商事(株) 小山 博  
 (株)清水アーネット 清水 龍男  
 ベルヴィアイトピア 清水 利一  
 (株)協同バス 鈴木 秀憲  
 田代商事(株) 田代 敬二  
 税理士法人森経理事務所 府川 吉延  
 (株)ファイブイズホーム 細井 保雄  
 (株)サンワックス 山田 晃  
 (株)行田セレモニー 横川 福治  
 渡辺(株) 渡邊 栄一

正 会 員

秋山 佳子 渥美 大童  
 新井 宏幸 新井 教弘  
 鮎川 渡 飯塚 孝義  
 飯塚 正夫 石井 芳幸  
 井桁 浄継 石井 健司  
 石井 直彦 伊藤 和江  
 今津利之助 稲垣 功一  
 植田 次郎 丑久保紀美  
 江原 史郎 江草とみ子  
 遠藤千枝子 遠藤 初枝  
 大河原梅夫 大嶋 康三  
 大友 務 大谷 昭  
 岡 隆史 岡田 則之  
 荻野谷麗子 小川 秀樹  
 奥貫 健一 小澤光太郎  
 小幡 和佑 折井 幸子  
 柿沼 京子 柿沼 幸子  
 粕谷 悦昭 片桐 章雄  
 加藤 元三 加藤 誠一  
 川島 武 川島 清実  
 川島 亨 川田 隆生  
 岸 誠太郎 岸田 昌久  
 木村 義 木村 忠夫  
 木元 紘一 倉田 君子  
 栗原 穂子 手島 克也  
 小久保和子 小島 成一  
 小菅 恵一 小島 敏男  
 小林 敏則 小林 邦雄  
 小山喜一郎 金子 友明  
 斎藤 勲 斎藤 康弘  
 斎藤 準一 坂田 敬子  
 坂本 光代 清水 利一

正田 善洗 我妻光一郎(進修館高校校長)  
 杉田 禮三 須郷 榮司  
 須郷 隆 鈴木敬一郎  
 鈴木 寿子 鈴木貞二郎  
 鈴木 俊一 高橋 弘行  
 関根 宏次 田島 博夫  
 田熊 宏次 田島 和夫  
 田代克太郎 武田 和則  
 棚沢 孝一 津田 馨  
 戸ヶ崎直司 戸塚 義男  
 富田 久雄 中川 忠昭  
 長島 康雄 永沼督一郎  
 長野 武俊 新島 璋記  
 野口 昭夫 野口 啓造  
 橋本 祐一 蓮見 牧子  
 長谷川盛雄 島山 貞子  
 羽鳥 利明 羽鳥 弘  
 東 美智子 平井ユリ枝  
 平塚 基 府川 吉延  
 二味 宏 古市 恒裕  
 細谷 茂樹 松平由美子  
 松田 招蔵 松本 健一  
 松本 安夫 丸山 和雄  
 水谷 良二 水野 武久  
 北上 博(武蔵野銀行行田支店長) 武笠 勇  
 村賀 英介 最上 絹江  
 持田 朋春 森 安正  
 矢口隆一郎 梁瀬 里司  
 柳瀬とし子 山田 映子  
 山本 正幸 吉田 修  
 吉田 幸一 吉田 豊彦  
 吉川 正就 若松 良一  
 渡辺 幸子 渡辺 邦道

(平成二十四年十一月三十日現在)

# 平成二十四年度 事業行事経過メモ

## 1 会 議

### (一) 総 会

#### ① 定時総会開催

(公務報告、講演会・懇親会)

日 時 平成二十四年六月十七日(日)

参加者八十三名

午後三時～午後八時三十分

会 場 行田市・ベルヴィアイトピア

来 賓

衆議院議員

本多 平直様

埼玉県議会議員

鈴木 聖二様

行田市長代理教育長

中村 猛様

行田市教育委員会委員長

岸田 昌久様

行田商工会議所名誉会長

鈴木 秀憲様

行田商工会議所会頭

小川 雅以様

行田商工会議所副会頭

細井 保雄様

行田さくらロータリークラブ会長代理

阿部秀二郎様

行田青年会議所理事長

井上 光広様

埼玉新聞社社長

小川 秀樹様

旧忍藩主阿部家二十二代ご当主

阿部 正靖様

松平忠昌議長より平成二十三年度の事業および決算、監査について報告があった

#### 記念講演

「私のふるさと

そして会社経営で学んだこと」

講 師 松沢 幸一様

(キリンビール(株)前社長)

#### 懇親会

アトラクション

青柳有香子(二期会会員)

大野 明子(ピアニスト)

野バラ 他

### (二) 役員会

#### ① 理事・監事合同準備会

日 時 平成二十四年四月二十五日(木)

午後二時三十分～四時三十分

会 場 行田本部事務所 会議室

#### 審議事項

1 平成二十三年事業報告書

(案)について審議

2 平成二十三年取支決算書

(案)について審議

3 平成二十三年度の事業・決算

に係る監査

4 役員改選(案)について審議

平成二十四年六月十七日(日)

#### 総会開催について

#### 6 その他

定時総会日に開催される理事  
会・評議員会に提案する審議事項  
並びに総会報告事項の決定、総会  
の運営進行等について打ち合わせ

#### ② 評議員会・理事会

日 時 平成二十四年六月十七日(日)

午後一時五十分～三時三十分

会 場 ベルヴィアイトピア

#### 審議事項

1 平成二十三年度の事業報告が

なされ審議・承認

2 平成二十三年度の決算報告が

なされ審議・承認

3 平成二十三年度の事業に係わ

る監査報告

4 役員改選について審議・承認

5 その他

#### ③ 理事・監事会

日 時 平成二十四年十一月二十日(火)

午後三時三十分～五時

会 場 ベルヴィアイトピア

#### 審議事項

1 平成25年度事業計画(案)に

ついて

A、「進脩塾」事業計画案につ

いて審議・承認

B、「浮城のまち行田少年の主

張大会」事業計画案につい

て審議・承認

C、「読書推進実行委員会」事

業計画案について審議・承認

2 平成二十五年度予算(案)に

ついて審議・承認

3 平成二十五年一月の総会・賀

正会の日程について

#### ④ 評議員会

日 時 平成二十四年十一月二十日(火)

午後五時十分～六時

会 場 ベルヴィアイトピア

#### 審議事項

1 平成25年度事業計画(案)に

ついて審議・承認

2 平成二十五年度予算(案)に

ついて審議・承認

小山博事務局長より平成二十五  
年一月二十六日(土)に総会と賀正会  
を開催したいとの提案があり承認

3 その他

## 2 教育奨励事業

### I 進脩塾活動

#### ① 公開講座

「郷土先人の業を明らかにする市民  
講座」及び忍藩子ども塾素読教室発  
表会

日 時 平成二十四年六月二十三

日(土)

午後一時三十分～四時

会 場 行田市商工センター大ホ

ール

講 師 村山吉廣先生(早稲田大

学名誉教授)

『近藤栄軒先生の宋名臣言行録を読む』

受講者 一八〇名

#### ② 定例講座

四月「孟子」荒井 桂先生



五月「孟子」 田代 敬二先生  
 八月「孟子」 荒井 桂先生  
 九月「孟子」 荒井 桂先生  
 十月「孟子」 荒井 桂先生  
 十一月「孟子」 荒井 桂先生  
 ※行田ケーブルテレビにて放映  
 (内容) 進脩塾の目的、講義、  
 受講者の感想、今日の論語から

③ 忍藩子ども塾素読教室の開催  
 日時 毎月第一、第二、第三土曜日 午前九時三十分～十一時三十分  
 場所 行田市郷土博物館講座室  
 受講者 行田市内低学年児童(四才～八才まで) 四十七名  
 講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生  
 内容 論語・漢詩・古事記の学習

④ 東京支部素読教室開催  
 (二十三年五月より)  
 日時 毎月一回土曜日 午後二時～三時三十分  
 場所 天眼寺(東京上野)  
 受講者 天眼寺関係者 十三名  
 講師 田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生  
 内容 論語・漢詩の学習

⑤ 漢文検定試験の実施  
 日時 平成二十四年十一月二十三日(祝日)  
 場所 行田市郷土博物館講座室  
 受験者 三十二名(寺子屋の部初級、中級、上級)

⑥ 出前出張授業  
 行田市立埼玉小学校  
 日時 毎週水曜日 十四回実施

Ⅱ「第二十六回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰  
 日時 平成二十四年十一月二十四日(土)  
 会場 行田市教育文化センター「みらい」ホール  
 発表者 市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加  
 本会、松平 忠昌 会長より記念品を贈呈した。

Ⅲ 第十回 読書推進学習会  
 ・読み聞かせボランティア スキルアップ講座と交流会  
 (おはなしで遊ぶ)

日時 平成二十四年二月四日(土) 午後2時～4時  
 会場 行田市男女共同参画推進センターVIVAぎょうだ二階学習室  
 講師 藤田浩子先生(語り手・幼児教育者)  
 受講者 六十四名

4 会報69号の発行  
 会報六十九号を平成二十四年十二月一日に発行  
 全会員、市内各小、中、高校、幼稚員、保育園及び素読教室関係者に配付

5 慶 弔

6 会員増強対策  
 新入会者紹介(敬称略 入会順)  
 紹介者(松平 忠昌)  
 ・小菅 恵一  
 行田市桜町二一五―四  
 埼玉県立北本高等学校 教諭  
 ・中村 猛  
 行田市深水町二一―四  
 行田市教育長  
 紹介者(清水 龍男)  
 ・橋本 祐一  
 行田市門井町三一二〇―一三  
 HAIRSHOPYOUJI代表  
 紹介者(田代克太郎)  
 ・大澤 孝至  
 熊谷市本町一―二四八  
 松坂屋建材(株)代表取締役

紹介者(小山 博)  
 ・府川 吉延  
 行田市向町二一―四一  
 税理士法人森経理事務所 代表社員  
 ・山崎 明弘  
 さいたま市緑区東浦和二―三―三  
 行田市副市長  
 ・鹿山 高彦  
 行田市桜町二―二五―一三  
 (有)土橋薬局 代表取締役  
 ・高橋 弘行  
 行田市行田八一―〇  
 行田市議会議員  
 ・新井 孝義  
 行田市長野七四五六  
 行田市議会議員  
 ・吉田 豊彦  
 行田市中央二一―一  
 行田市議会議員  
 ・石井 直彦  
 行田市西新町一〇〇―九二  
 行田市議会議員  
 ・稲垣 功一  
 行田市真名板一五一―九一三  
 (株)行田ガーデン 代表取締役  
 紹介者(田代敬二、遠藤初枝)  
 ・栗原 穂子  
 鴻巣市北新宿七〇六一―一五  
 表千家 茶道教授  
 ・伊藤 和江  
 鴻巣市本宮町四―二四  
 大日本茶道学会 茶道教授  
 ・坂田 敬子  
 熊谷市東別府六九八―七  
 桂古流 華道教授  
 合計 十五名

# 第十回全国藩校サミットin・水戸 江戸の学び―水戸の学び―に参加して

五十幡 和彦

二月十八日(日)、徳川御三家縁の水戸市において「第十回全国藩校サミットin水戸―江戸の学び 水戸の学び―」が開催され、(財)忍郷友会からも三十名近い会員が参加しました。水戸徳川家は徳川家康公の末の息子

頼房公が一六〇九年に藩主として生まれた藩で、二代藩主徳川光圀公による「大日本史」の編纂等、学問を尊ぶ藩として知られ、また九代藩主斉昭公の時代に日本最大級の藩校「弘道館」や「偕楽園」を設立したことも有名です。

## 参加された三十五の

### 「旧藩御当主と藩校紹介」

藩校サミットは三部構成で行われ第一部は主催者挨拶、橋本昌茨城県知事、高橋靖水戸市長による歓迎挨拶に続いて、参加された三十五の「旧藩御当主と藩校紹介」が行なわれました。

忍藩松平家第十六代当主松平忠昌氏をはじめとした三十五名の旧藩御当主が、藩校の映像と共に水戸芸術館コンサートホールのメインステージに立つと、会場は凜とした雰囲気包まれ、歴史と伝統の重みを感じられる一幕となりました。

## 徳川宗家第十八代当主による

### 記念講演



第二部は記念講演Ⅰ「地方自主と質素 儉約の時代」として徳川恒

孝氏(徳川宗家第十八代当主)による記念講演で、江戸時代すでに日本は世界に先がけ地方自主が全国に行き渡っていたこと、識字率が男性七(八割、女性五割(ヨーロッパでは男性二(三割、女性〇・五割)もあり世界断トツの一位であったこと、その高い学問水準を支える元となったのが全国の藩校であり、当時の大名は学問の力で藩のレベルを引き上げようとしていたこと等を御講演頂きました。

続いての記念講演Ⅱ「水戸義公と史記伯夷列伝」では石川忠久氏(漢字文化振興協会会長・元二松学舎大(学学長)より精神文化の衰え、漢字文化の衰退を憂いて漢字文化振興会が設立され、その一環として藩校サミットを企画するに至った経緯が説明されました。

## 水戸市立五軒小学校児童による

### 「偕楽園記」素読発表

第三部では「水戸の学び―水戸藩

の学問・教育遺産―と題した映像紹介、記念講演Ⅲ「江戸の学び 水戸の学び」徳川斉正氏(水戸藩徳川家第十五代当主)に続いて、「弘道館素読の会」による「弘道館記」素読、水戸市立五軒小学校児童による「偕楽園記」素読が発表され、会場からは絶賛の大きな拍手が送られていました。その後、水戸宣言の発表、次回開催地引き継ぎ式が行われ、次回は鹿児島県鹿児島市で開催されることが宣言されました。

## 参加者約五五〇名による

### 大交流会と視察研修「水戸の学び」

藩校サミット終了後は会場を水戸プラザホテルに移し、参加者約五五〇名による大交流会が開催され、忍郷友会の会員も白河藩や結城藩等それぞれの席で一緒になった全国各地の藩校と情報交換を行うことが出来ました。そして翌十九日は弘道館、偕楽園、徳川ミュージアム等の視察研修に参加し、終日「水戸の学び」を堪能した一日となりました。

さて来年の第十一回大会の鹿児島県に続いて、十二回大会はいよいよ行田市で行われる予定です。全国から訪れる藩校関係者に忍藩進脩館、そして行田市の魅力をたっぷり伝えられるよう頑張りましょう。

(評議員)

# 藩校サミットについて

## 財団法人忍郷友会 藩校サミット企画会議

議長 矢澤大和

### 一、藩校サミットの開催目的

藩校は、江戸時代藩士とその弟子のために造られた学校で、当時は全国の諸藩（三百諸侯）が競って藩校を設け、教育に力を入れていた。藩校の精神は今も全国の多くの自治体や団体に受け継がれている。これらが連携をし、その精神を現代の教育や街づくりに活かしていこうというのが「藩校サミット」なのです。

私たちの祖先は勤勉、正直、親切、思いやり、謙虚、素直、感謝といった徳目を規範に幾世も暮らしてきた人たちであり、このことは幕末の日本を訪れた外国人が日本と、日本人について感動と賞賛の記録がたくさん残されていることから明らかです。

これらのことは美しい日本の風土、神ながらの道、あるいは儒学（人の人たる道）を中心とする藩校教育が幾重にも重なりあつて、創り上げた美質であると言えます。が、昨今の

実状はと言うと、残念ながら地に落ちたと云わざるを得ません。

この美質を取り戻し、後生に渡してゆくことが今を生きる私たちの務めであり、これこそが正しく「藩校サミット」の精神であります。



### 二、古典の日と合致する目的

奇しくも本年、第一八〇回国会において、古典の日に関する法律が成立し、十一月一日を「古典の日」と定め、地方公共団体は古典の日が定められた趣旨を踏まえ、国民が古典に親しむための施策を講ずるよう求める通達が、九月五日附けをもって各都道府県教育委員会、学校、文化施設、その他の各種関係団体になされました。

「古典」とは、文学、音楽、美術、演劇、伝統芸術、園芸、生活文化、その他の文化芸術、学術または思想の分野における古来の文化的所産であつて、我が国において創造されまたは継承され、国民に多くの恵沢をもたらすものとして、優れた価値を有すると認められるに至ったものをいう。

本藩校サミットは、この国家的要望に応える最高のイベントであるとともに、わが財団法人忍郷友会の使命とも合致する一大事業である信じ、諸手を挙げて主催者に協力をし、てゆく所存です。

### 三、過去における

#### 藩校サミット開催地

- 第一回 東京お茶の水 平成十四年三月一日
- 第二回 福島県会津若松市 平成十五年十月十八日
- 第三回 佐賀県多久市 平成十六年六月二十六日
- 第四回 岡山県高梁市 平成十七年六月十一日
- 第五回 長野県伊那市高遠町 平成十八年五月二十七日
- 第六回 山形県鶴岡市 平成十九年六月二十三日
- 第七回 熊本県熊本市 平成二十年六月二十一日
- 第八回 新潟県長岡市 平成二十一年六月二十日
- 第九回 島根県松江市 平成二十二年六月二十六日
- 第十回 茨城県水戸市 平成二十四年二月十八日
- 第十一回 鹿児島県鹿児島市 平成二十五年三月九日

### 四、藩校サミット

鹿兒島大会のあらまし  
テーマ 次世代を拓く藩校と郷中の教育

日時 平成二十五年三月九日



吉田浩巳氏  
鹿兒島大学学長  
原口 泉氏  
志學館大学教授

藩校サミット鹿兒島  
大会交流会

日時 同三月九日  
午後六時か  
ら午後九時

会場 城山観光ホ  
テル  
エメラルド

午後一時から午後五時三十分  
会場 城山観光ホテル  
ロイヤルガーデン

参加費 無料

主なプログラム  
記念講演 漢字文化振興会  
石川忠久会長  
朗 唱 島津日新公 いろは歌  
南さつま市こどもの森保育  
園児

映像に見る鹿兒島大会  
鼎 談  
『地域の教育力をどう生かすか』  
「人間」を育む 鹿兒島からの提言  
末吉竹次郎氏 国連環境計画・金融  
イニシアチブ特別  
顧問

ホール  
参加費 一〇〇〇〇円

薩摩琵琶演奏 島津義秀氏  
郷土芸能 ヤング踊り連TEAM  
鹿兒島女子短期大学ダンス部

問い合わせ 財団法人 忍郷友会  
事務局（遠藤迄）（火・金）  
電話〇四八―五五六―九〇〇〇

五、第十二回藩校サミット  
行田大会に向けて

鹿兒島の次は、いよいよ「行田」  
です。志を同じうする方々が、日本  
各地からお越しになります。私たち  
が育んできた精神文化作興の風をい  
かに感じ取っていただけるか、おも  
てなしの心がいかに伝えられるか、  
行田人のさらに言えば忍人の真価が  
問われるイベントになります。私は、  
「藩校サミット企画会議」の議長と  
して、各位の英知と勇氣と情熱を結  
集させ、「藩校サミット行田大会」  
の成功に向けての  
発進をしたいと思えます。何卒、  
会員各位のご支援ご協力をお願い  
いたします。

## 「天祥院殿奉讃会よりの寄附について」

松平家菩提寺である天祥寺は、昭和四十六年から再建が行なわれて  
参りました。その再建事業は、天祥院殿奉讃会により推進された訳で  
すが、既に半世紀に近い年月が流れて、設立当初の発起人も中心なっ  
て尽力されて来られた「佐藤孝太郎翁」を残すのみとなっています。  
佐藤孝太郎翁は、当会にも多大の貢献を果たして居られ、名誉理事  
の職に就いて頂いています事は皆様もご高承の通りであります。予て  
より、同翁は天祥寺奉讃会の基金からの当会への寄附を考慮しておられ  
ましたが、二〇一二年から実施を申し出られましたので、これを有  
難くお受けして会の活動に供する事としましたので、会員各位にご報  
告する次第であります。

金額は、初回一〇〇万円を頂戴しており、二〇一三年度も寄附願え  
る事になっております。

ご参考迄ですが、天祥寺奉讃会は昭和四十六年六月に以下の趣意書  
を以って発足した会であり、現在は小生が代表人となって一部の事業  
を行っている状況です。

「天祥院殿奉讃会趣意書」

松平忠明候の業績を顕彰すると共に天祥寺の史跡としての意義を評  
価し、地元行田市の発展に寄与することを目的として有志相集い左の  
事業を行なう。

一、本堂の建設  
一、檀家の勧誘  
一、墓所の建設分譲  
一、地域社会への奉仕

昭和46年6月

発起人 松平 忠晃 奥貫 賢一 小池 庫三 石川 孝夫  
永沼 運造 小川英之助 青柳 嘉助 野口 雪雄  
佐藤 孝太郎（順序不同） 以上

# 「乱世を生き抜いた甲斐姫の生涯」

埼玉新聞社相談役 丸山 晃

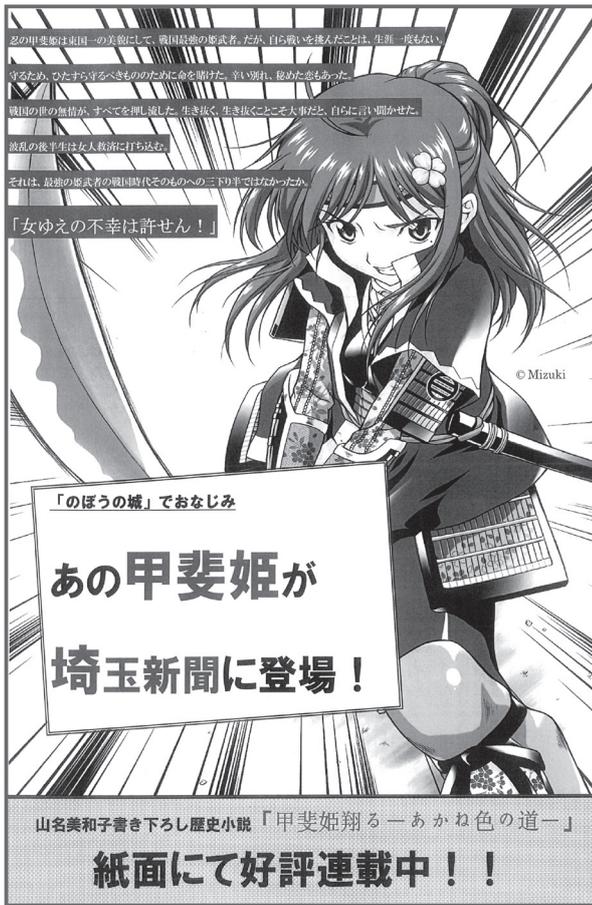


甲斐姫の生涯は、三期に分けられる。まず、忍城に生まれ豊臣軍

と戦った十八歳までの埼玉時代。二期目は、秀吉の側室となり大阪落城の四十三歳までの京都大阪時代。三期目は、縁切り寺で知られる東慶寺で女人救済に情熱を傾けた鎌倉時代である。

世は戦国の一五七三年に生まれ、死をも恐れず戦い、厳しい局面に追い込まれても自刃の美意識には惑わされず乱世を生き抜く。戦が終われば、菩提を弔う余生ではなく、女人救済に打ち込む。こうしたメンタリティーは、わが国女性史において特筆すべきで、甲斐がもし、死は問題解決にはならないと考えていたとしたら、戦国という時代の精神をはるかに超えた人物ではないかと思えてならない。

埼玉時代については「成田記」に詳しい。東国一の美貌にして、真田



「のぼりの城」でおなじみ  
**あの甲斐姫が  
埼玉新聞に登場！**

山名美和子書き下ろし歴史小説「甲斐姫翔る—あかね色の道—」  
**紙面にて好評連載中！！**

幸村軍を撃退した姫武者として華やかに描かれている。余りにも華やかなので、甲斐は架空の人物と見られたこともある。だが、その美貌と武勇は秀吉の耳に届き、一五九一年、秀吉は百々塚の陣（栃木県小山市）に甲斐を呼び出した折、一目惚れし側室にした。従って、美貌と武勇はあなたがち「成田記」の誇張と片づけ

るわけにもいかない。

甲斐が側室となって七年目の一五九八年三月、秀吉は京都醍醐寺で世にいう醍醐の花見を主催した。この宴に二十六歳の甲斐は出席しているはずである。国の重要文化財となっている四百余年前の醍醐花見短籍（たんざく）一三一首の中に、「かい」と署名された和歌がある。八月二十八日付の埼玉新聞一面で紹介された。

「合おい乃、松毛としふり佐くら咲、花を深雪能山農のと気佐」「かい」とあった。書は男性のようにパワフルで、いかにも姫武者の勢いがある。万葉仮名のような漢字の使い

方には、時空を超えて胸に迫るものがあった。

秀吉は、花見の半年後に六十二歳で没する。遺言の五大老体制は、前田利家の死去でたちまち崩れる。家康は天下を狙い、京都にいた秀吉の正室「おね」のもとへ足繁く通う。豊臣の武闘派が、「おね」支持で固まりつつあったからだ。一方、側室の「淀殿」は大阪城に入り、秀吉の遺児である秀頼を天下人とすべく家康と対峙していく。

甲斐は花見の前から「おね」の侍女になっていったという説と、七、八歳の秀頼のお守り役になったという二説がある。当時は、側室、妾の子は正室が育てたといわれるので、この二説は矛盾していない。いずれにしろ甲斐は、「おね」と「淀殿」の溝を超えて、両者と対話できる信頼と力を持っていたと見られる。

一六一五年、徳川・豊臣最終決戦・大阪夏の陣。豊臣軍は劣勢にあった。ひとり気を吐いたのは真田幸村である。六文銭幸村は家康の本陣に迫った。この時、忍攻防戦の恩讐を超えて幸村・甲斐軍ができていれば、歴史は変わっていたかも知れないと秘かに思ったりする。幸村四十八歳、甲斐四十三歳。秀頼はなぜ甲斐を武將として出陣させなかったのだろうか。

秀頼の正室千姫は、大阪落城前に家康の命で城を抜けた。千姫は二代將軍秀忠とお江の娘で、「淀殿」と「お江」は姉妹であるから、千姫は家康の孫であり淀殿の姪である。大阪落城の中で秀頼と淀殿母子は自刃する。淀殿は秀頼の子二人を甲斐に託す。甲斐は炎上する城を二人の子を抱えて脱出し、長男国松とは途中で別れ、長女奈阿姫と十五万の包圍網を突破して京都へ向かう。その後、甲斐と奈阿姫は千姫の嘆願もあり、鎌倉東慶寺に入り、尼となった。

甲斐の鎌倉時代は三期の中で一番長い。戦のない時代である。東慶寺は幕府公認の縁切り寺であった。男性は三行半で離婚できたが、女性には離婚権がなかった。だが、性から三行半は出せなかった。だが東慶寺で一〜三年修行すれば離婚と認められた。縁切り寺の所以である。

そこには大名の妻まで駆け込んだという。女性が離婚権を得たのは明治になってからのことである。奈阿姫は天秀院となり同寺の躍進に活躍し、甲斐は三十年間天秀院を支えた。天秀院の墓から二メートルほど離れたところにある宝篋印塔は、間違いなく甲斐の墓だと行田の郷土史家は言う。甲斐七三歳の生涯であった。

男社会の戦国を、「男には負けな

い」と言わんばかりに姫・武将・側室・侍女・尼と懸命に生きた甲斐の胸の奥には、「女は割に合わない」という時代への怒りが消えることはなかったのではないかと思えてならない。歴史検証と解明作業の必要は言うまでもないのだが。

埼玉新聞では、今年二月から歴史作家・山名美和子氏の小説「あかね色の道、甲斐翔る」を連載し、今、出版準備に取り組んでいる。埼玉が生んだ傑出した戦国ヒロインを、一人でも多くの県民に知っていただきたい気持ちは高まるばかりである。

## 漢文検定試験行われる

今年で三回目を迎える漢文検定試験が去る十一月二十三日（祝日）行田市郷土博物館で行われました。日頃励んできた「論語」「漢詩」の素読朗唱の成果の程を試すべく多勢の児童が挑戦しました。審査員は漢字文化振興協会から委任された、津田 馨前行田市教育長、松平忠昌会長、矢澤大和理事、五十幡和彦評議員の四名の方が厳粛に審査に当りました。

初級論語二十五名、中級論語一名、中級漢詩一名、上級論語一名、上級漢詩二名、寺子屋篇終了試験二名以上延べ五十七名の児童が緊張しながらも、合格をめざして挑戦しました。今年から中級以上は筆記試験が新たに導入されて、小学生の児童には慣れない漢字に四苦八苦しながらも無事終了し、内五十四名が合格し、十二月八日(土)合格証の授与が行われました。



### 埼玉に、こんなに凄い 姫がいたのか！

歴史小説家・山名美和子氏、渾身の書き下ろし  
**甲斐姫翔る あかね色の道**

動乱を生き抜いた志と、  
女心の葛藤を描く感動作！

埼玉新聞書き下ろし小説  
2月1日連載開始  
週4回・計120回掲載（予定）



忍城主・成田氏長の長女申楽姫は、文武に秀でた東国無双の美女でした。太閤秀吉をも驚かし、恐れられるほどの存在だった姫の心はなぜ、大阪城落城後に「女人救済」へ向かったのか。動乱を生き抜いた志と、女心の葛藤を戦国の埼玉を俯瞰しながら、行田〜福島〜大阪〜鎌倉へ、その人生を精力的な取材に基づいて追いかけてます。

【お問い合わせ先】 埼玉新聞社販売局・情報開発室  
フリーダイヤル 0120-633-888（月～土 午前9時～午後6時）

### 埼玉新聞社

# 茶の湯歳時記

栗原 毬子

茶の湯の世界では、一年を風炉の季節（五月～一〇月）と炉の季節（十一月～四月）とに分けられています。移りゆくそれぞれの季節を味わいながら、お茶の中に季節を取り入れて「茶の湯」として楽しんでおられます。

なかでも取り分け大切な行事のひとつに「開炉」があります。十一月初



栗原社中の皆さんの初釜

めの亥の日を目安に、それまで使っていた風炉を仕舞い、炉を開けて花も秋草から一新して、照葉と椿を入れます。口切りの時季とも重なることもあって、お茶のお正月と云われています。

一月 歳の初め 宮中歌会始めのお題に因んだ茶碗や干支の凶柄のお道具等を開いて初釜を催します。

二月 上旬の初午には宝珠の抜型のある馬上杯といわれるお茶碗で点茶。二十八日は利休忌。天正十九年秀吉から死を賜った千利休から数えて十四代目表千家家元は而妙斎宗左と申します。京都の家元御祖堂や大徳寺聚光院の利休墓前にお参り致します。

三月 お雛さまに因み、小振りでも可愛らしいお道具組でお節句を祝います。

四月 春うらら、野点の風情を味わえる釣り釜を掛け、かすかに揺れるお釜から一杓椀に掬い入れ、お薄を一服召し上げ：

五月 「炉のあとは一畳青しほととぎす」この句は一七三〇年享保

一五年表千家七代を継いだ如心斎宗左の作です。爽やかな五月、床には三級浪高魚化龍のお軸を掛け、この故事により龍や鯉



に因むうろこ文の焼き物を用いて、端午の節句を初風炉でおもてなし：

六月 水無月、青梅、紫陽花等の銘がついた美しいお菓子を通き、早苗蛸の蒔絵が施されたお棗からお茶をすくい、さらりと一服：

七月 五節句の一つ、七夕に因み糸巻棚には沈香を入れた香合とお羽根を飾り付け、お炭の準備も整いました。さあ、お客様をお迎え致します。さあ、お客様をお迎え致します。

八月 早朝六時頃から始まり、後炭手前は省略して涼しいうちに行われます。



お稽古の様子

ガラスの器を使うなど涼を意識したもてなしが特徴です。

九月 九日は重陽の節句、菊の花の露を綿に含ませ、その露を飲み長寿や厄除けを願ったそうです。お茶席では「きせわた」の銘のお菓子等を頂きます。一三日は中興の祖七代如心斎の天然忌が営まれます。

十月 名残りの季節、佗びの風趣で晩秋のお茶を味わいます。

十一月 先に述べたように開炉（ろびらき）といってお茶のお正月と云われています。

十二月 日暮れに集い、露地の行燈に導かれ手燭で足元を照らしてお席に躰り入る。仄暗い茶室で揺れる小燭のなか、練られた濃い茶を頂く：まるで幽玄の世界です。夜咄しの茶事とも云われています。何かと気忙しい歳の暮れ、行く年を惜しみお茶事等催す余裕が欲しいものです。

茶の湯の精神は「相手を思いやる心」であり、わずかな数畳の茶室でも、そこには建築や造園、茶花、書、美術工芸といったさまざまな日本文化の粋が内包され、調和のとれた世界をつくり上げています。茶の湯を通して日本を学ぶ、茶道の素晴らしさに触れられることといえるでしょう。

（鴻巣市在住 茶道表千家ご教授）

自転車健康に!

「トラック一台分の葉より一台の自転車」、これはドイツで言われていることわざです。サイクリングは有酸素運動の代表選手で健康にとっても良い運動です。ジョギングなどと違ってひざ、足首などに負担が少なく善玉コレステロールの増加、心肺機能の向上、足の筋力アップ（足は太くなりません）に対して効果が発揮しメタボ対策に適したスポーツです。それではどれだけカロリーを消費するのでしょうか？MET法という計算式があり簡単に計算できます。時速20kmで走ると「八MET」で私は体重七十kgなので一時間当たり五六〇Kcal消費することに なります。ジョギングで時速八kmで走ると同じ数字です。今年の春、佐渡島一周二一〇kmの大会に出たときは平均二十一kmぐらいで走り十時間走ったことになりました。計算すると五六〇〇Kcal消費したことになります。これは二日半のカロリー摂取量に匹敵します。

最近あちこちでスポーツバイクに乗っている人を見かけるようになり

ました。皆さん自転車の魅力に取り付かれたのではないのでしょうか。ネットで検索してみると毎月日本の何処かで大会が開かれています。前述の「スポニチ佐渡ロングライド二一〇」は大変人気のある大会で毎年多くの参加者があり、今年も約三〇〇〇人の人が参加しました。

ことしは天気に恵まれ絶好のコンディションの中、朝六時にスタートしました。この時点では気温も低くウインドブレーカなどを着込み出発です。途中ボランティアの方々がエイドステーション（食糧補給所）で水、バナナ、オレンジ、おにぎりなどのサービスをしてくれます。佐渡でうれしいのは名物のお蕎麦や、お

黒 淵 陽 夫



CYCLE MODE しまなみアイランドライド2010 10月10日

饅頭のサービスがあること、そして行く先の道端で島の方々が応援の暖かい声をかけてくれることです。さて六十kmを走ると第一関門の「Z坂」と呼ばれる十一%の坂に遭遇します。一二〇mの標高差をジグザグに一気に上ります。体重七十kgの私にとって大変きつい坂です。若い女性が脇をスイスイ追い抜いていきま す。その後十kmほど行くと景勝地の「大野亀坂」です。ここも十%の坂ですが、ある意味こちらのほうがきつく感じます。その後海岸線のさわやかな風を受け、綺麗な海を見ながら快適に走り一〇〇km走った両津港で昼食です。

ここまでくると少し疲れが出るのと、あと半分という気持ちが悪くなります。後半の坂道が意外ときついで出発するのを躊躇させますが、みんなにつられて出発です。細かなアップダウンの繰り返しの中を順調に走ると突然十一%、十五%の坂が連続して現れます。ここで今まで頑張ってきた気力を打ちのめされた人は降りて歩いて登り始めてしまいます。どうにか足を突かずに登りきるといよいよ最後のエイドステーションです。ここで少し休憩して最後に待ち受けている七%の素浜坂に挑戦です。既に一八〇km走った後なのでこの二



2014年6月15日 佐渡島ロングライド210 5月15日

と登れません。これで坂は終わりだと思つて快調に下つていくと、なんと最後にもう一つ七%の国道坂が待ち受けています。

この坂をあえぎながらクリアするといよいよラスト十五kmです。毎年ここから向かい風になりペダルを踏めども、踏めども前に進まない感覚になります。それでも綺麗な海を見ながら最後の気力を出しスタート地点の佐和田に帰つてくると、「黒淵陽夫さん、お疲れさん、お帰りなさい！」とスピーカーからねぎらいの言葉が放送されます。この一言で疲れが吹き飛んでしまいます。完走証を受取り宿泊のホテルまでは、ゆっくりと帰り本当に気分の充実した時間です。今年はこれで大会参加はありませんが、週末には秩父まで走っていますのでお会いしたときにはお声がけを下さい。

(理事)

# 俳句

## 特別寄稿



木嶋 斗川

長き夜を短く生きて八十路なる  
秋蟬のひと声太し裏鬼門  
新米の来る日和なり倉掃除

清水 孝男

払暁の赤城浅間や稲の花  
峯々もくつろぎの刻秋彼岸  
蹲踞の柄杓の影や冬浅し



# 短歌



木嶋 清

早春の星満天の利根の郷  
核の流れは忘れていた  
紫陽花の四ひら五ひら咲き初むる  
亡き母の声聞こえ来るかに  
その昔裸馬駆け抜けし利根の土手  
髪の乱れを気にせで歩く

鈴木スイ子

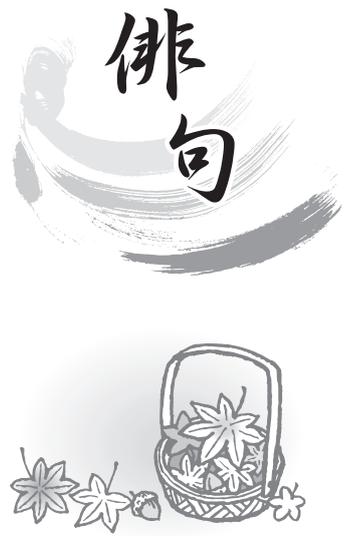
終戦後一年過ぎて帰還せし  
父はリュックとマラリア持ちて  
初物の栗の渋皮剥きおれば  
竈で焼きいし母を思えり  
遠き日に子らと泳ぎし島に来て  
変わらぬ渚を素足で歩く

平井ユリ枝

紫陽花よ移り気な人待たずして  
今が盛りと勝ち誉れたし  
進歩する世の流れにも遅れとり  
はるかな友のメールに驚く  
年重ね学びしことは片目閉じ  
他人の思いを笑みで飲み込む

榎本 晃三

華嚴の滝久々に佇む「巖頭之辞」  
ありし日のかげわが身の残像  
「忘れな草」亡き妻を恋ふ夫ありき  
湖畔に残る挽歌のエコー  
惚けて忘れて荒くれて妹よ  
病棟の檻重くしづけき



古代蓮

あかときの木橋石橋古代蓮  
 古代蓮咲いて四日の命かな  
 枯蓮の人影のなき展望塔

齊藤 勲

洛陽

長屋門栄枯を語る吾亦紅  
 常夜灯落葉に映ゆる遊歩道  
 黄昏を老いぼろぼろの鬼やんま

榎本 晃三

鈴木スイ子

梅雨寒に羽織る袖口ほつれをり  
 花疲れ見知らぬ人と椅子に座す  
 風化せし破顔羅漢に木の実降る

人間の大地に夢を上り月  
 為すことの成らぬ齒痒さ木の葉髪  
 名残空まだ為すことのありたるに

清水 孝男

友招き朝餉をと共に古代蓮  
 命網彩のかがやき雨乞し  
 色変えぬ池のみどりに秋海棠

小山 隆右

爽涼や十指にあまる朝の水  
 帯を解く秋めく風をあそばせて  
 秋風と思えり角を曲がるたび

折井 幸子

利根よりの清しき風よ秋の朝  
 秋茄子や疑い晴れぬ核恐怖  
 颱風よ予報のルート外れむか

木島 斗川

はなみずき訪ね人なく花ざかり  
 北風に心閉ざして鳥の飛ぶ  
 着ぶくれて波におされて流されて

平井ユリ枝

手水鉢照らす明かりの月見かな  
 妻沼寺初夏に味わう稲荷寿司  
 鈴虫の音色すがしき聞ふかし

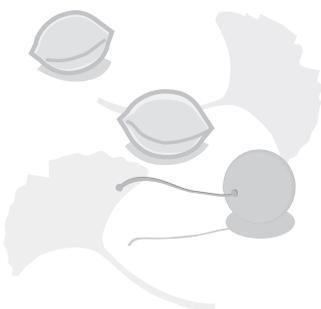
三島 務

山ひだの影深く入る冬棚田  
 漆黒の溪に螢の御霊あり  
 向き合うも一言もなくかき雑炊

阿部秀二郎

額の花活けて茶の席定まれり  
 背シャンと伸ばし冬めく街に出る  
 山車を引くなかに双子の男の子

遠藤 初枝



## 「行田市蓮の大使」 木暮照子さん ◇ 古代蓮の里 ◇ で作品展を開催

六月二十三日から七月十六日まで、約十二万株のハスの花が見頃を迎えた古代蓮の里・古代蓮会馆で、「行田市蓮の大使」を務める人形作家・木暮照子さんが作品展を開催しました。開花から四日で散ってしまう蓮の花。聖なる蓮の心を作品に込め、その美しさ・品格を表現した立体造形には人間の一瞬の思いを感じる神秘さがあります。

木暮さんの作品は、桐材を彫刻した上に、貝殻を粉末状にした胡粉をニカワで溶いて重ね塗りして仕上げるそうです。雛人形の肌のようなきめ細やかさと艶めき、温かみ特徴です。

人形作家としてのキャリア約40年。ハスを題材にした作品に取り組んで三十一年目を迎えました。「一三〇〇年から三〇〇〇年の種が発芽した行田蓮はまさに再生と復興のシンボルです。特に震災後はその蘇生の力に感じ入ることがあります」と話してくれました。



古代蓮の里に咲く「行田蓮」は一九七一年、市のごみ焼却場を建設中に地中に眠っていたハスの実が出土し、二年後に開花したことから、市が天然記念物に指定しました。今回の個展では日展や日本新工芸展出品作品など花弁の枚数にちなみ、芽生えから散華・悠久まで蓮の一生を表現した十七体の人形を並べたそうです。いずれも清らかな姿で、慈しみのある微笑みは見る者の感性を揺り動かします。訪れた人たちは、蓮花の精を宿した優雅で凛々しい人形たちの醸し出す、ゆったりとした時の流れを楽しんでいました。「開花時期に開花場所作品展をするのが夢でした」と幸せそうな木暮さんでした。ギャラリートークでは市長のご挨拶もあり、また一日に一八〇〇人もの来場者があったそうで、盛やかな展覧会でした。



## 文部科学省による 実地検査を受ける

平成二十四年二月二十七日、当会の所管官庁である文部科学省の監査官二名が来所され、本部事務所において実地検査が行われました。松平会長、渡邊副会長、小山事務局長がこの対応に当りました。この検査は三年に一度必ず実施されるもので、今回も文書管理、法人の運営状況、事業の実施状況、会計処理など詳細に監査されました。

総合評価、改善を要する事項など文書によるもの、また口頭によるもの等詳しくご指導を頂きました。「改善を要する事項」については、指定された日程で文書による回答書を提出し、全ての項目について問題を処理しました。

なお、公益法人への移行が認可されると、次回は三年後に「内閣府」の実施検査を受ける事になります。



「公益法人への対応について」

法人に対する法律が改正となり、平成二十五年十一月三十日迄に新法対応の公益法人申請書を提出し、認可を受ける事が必須条件であります。

平成二十二年六月の評議員会にて新法対応に係る承認を受けて以来、監督官庁である文部科学省のガイドも受けて準備を進めておりますので、現況につき 以下の通りご報告します…

1. 寄附行為…

- (1) 明治三十八年（一九〇五年）の発足以来の「寄附行為」（新法では定款）を改訂し、平成二十四年八月二十九日付で文部科学大臣の認可を取得しました。改訂した寄附行為に基づく法務局への登記は実施済み。
- (2) 目下内閣府に対しての申請を進めており、「定款」を改訂して関連法規に沿ったものとする事で認可を受ける事になっています（平成二十四年十一月申請済みで、現在は審査・審議中）。

2. 移行内容…

- (1) 公益財団法人としての移行を推進しており、この為の以下の要件を進捗または実施済みです…
- (2) 東京支部（事務所）の設定。
- (3) 行政官庁への申請と認可取得（内閣府に行っていますが、認可条件に合致しない場合は、埼玉県教育委員会になる事が想定されます）。
- (3) 定款の策定（寄附行為を置き換えるもの）。

「地域共存」65年

税理士法人 大久保会計

所 長 税理士 大久保 毅

副所長 税理士 大久保 栄吾

支店長 税理士 大久保 秀彦

〒361-0023 埼玉県熊谷市津田二丁目二五番三三三号  
埼玉県熊谷市津田一一八八番地



www.gim.co.jp

株式会社 ジ ム

代表取締役会長  
八木原 保

# 御名刺掲載欄

(順不同)

特別会員

白河藩阿部家二十二代当主

阿部正靖

〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一〇九一八  
電話 〇四七五二六六一五五七九

行田セレモニー

(株)ヨコカワ

代表取締役

横川福治

〒361-0073 埼玉県行田市行田一三三三  
電話 〇四八二五五六二二三五八

# 行田市

市民の皆様と共に築く「元気な行田」  
の実現に向け、皆様のご理解とご協力を  
お願いします。

株式会社ケイマス

代表取締役

黒 淵 陽 夫

〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六二二二  
TEL 〇四八二五六九二二二五  
FAX 〇四八二五六九二二二二

棚沢書店

古本買入

棚 沢 孝 一

〒113-0033 東大正門前  
文京区本郷六一一八一二二  
☎ 〇三三三八二一〇三四一

ガクヤ株式会社

代表取締役社長

小池 俊 輔

〒361-0075 行田市向町十四一二二  
☎ 〇四八二五五六一三二二一

行田市俳句連盟

木 嶋 清  
(俳号斗川)

〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇  
電話・FAX 〇四八二五五七二〇二七三

奥 貫 健 一

公認会計士

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三一一十五四〇一

財団法人忍郷友会

会長

松 平 忠 昌

〒214-0038 川崎市多摩区生田六一一五一三六  
☎ 〇四四一九五五一九三三六

天眼寺住職

東 瑞 芳

〒110-0001 東京都台東区谷中一一二一十四  
電話 〇三三三八二一七七七八

財団法人若葉会

若 葉 保 育 園

園長 保 泉 欣 嗣

〒361-0073 埼玉県行田市行田十一一十  
電話(〇四八)五五六二二七九七



医療法人 葦の会  
石井クリニク  
元気いっぱい 笑顔いっぱい

理事長 石 井 義 則

〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一〇八九一  
電話 〇四八二五五五二三五一九

山本食品工業株式会社

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一  
電話 ○四八―五五九―二二二一

渡辺株式会社

渡邊栄一

代表取締役  
〒361-0073 行田市行田一―四  
電話 ○四八―五五六一―三一四六  
FAX ○四八―五五六一―二八八  
自宅 ○四八―五五六一―八九六八

東旭株式会社

小菅克祥

代表取締役  
社 長  
〒三六一―〇〇一六  
埼玉県行田市藤原町二丁目六一―  
TEL ○四八―五五六一―四五五二  
FAX ○四八―五五六一―四五五六

曹洞宗 松雲山 長光寺  
久寶山 興徳寺  
雲峯山 東泉寺

福島伸悦

住 職  
(連絡先)  
〒361-0073 埼玉県行田市市中条一六一九―二  
電話 ○四八―五五七―〇九九九  
FAX ○四八―五五七―二三四七  
E-Mail: kotokujif@muc.biglobe.ne.jp

忍藩子ども塾素読教室

田代敬二

主 幹  
〒361-0073 行田市行田一六一―六  
☎ ○四八―五五六―三七二八

山本商事株式会社

山本憲作

代表取締役  
〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇―四二二  
TEL ○四八―五五二―二二二一(代)  
FAX ○四八―五五二―三三〇八  
http://hoken-yamanoto.co.jp  
e-mail: info@hoken-yamanoto.co.jp

有限会社 高戸環衛

戸ヶ崎直司

代表取締役  
〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三十一―二六  
電話 ○四八―五五四―一九二〇  
FAX ○四八―五五六―二六二七

LINON  
〒361-0038 本 社 埼玉県行田市前谷二五  
TEL Office: 25 Meaga Gioda-5 Sakitama-ken Japan  
TEL: ○四八―五五二―〇九九 FAX: 五五二―三九九  
携帯 (Cell): ○九〇―三三四―〇四四四  
http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp

株式会社 リノン

新井啓介

代表取締役  
ARAI/KEISUKE (Casey)  
President

行田市 蓮の大使

木暮照子

日展会友・工芸美術  
日本新工芸家連盟会員  
蓮文化研究会理事・副会長

大岡産業株式会社

大澤 誠

代表取締役  
  
〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三三―〇一―  
TEL ○四八―五五三―〇二二八  
FAX ○四八―五五三―二六八―  
携帯 ○九〇―一六〇―二六六〇  
http://www.ookasangyo.com/

羽生モーターズスクール

五十幡和彦

代表取締役  
〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇  
TEL ○四八―五六―一三〇〇八  
FAX ○四八―五六―一五四七  
http://www.motorschool.co.jp  
E-mail: hanyu@motorschool.co.jp

地元に着した住まいづくり  
株式会社 ファイブイズホーム

細井保雄

代表取締役  
〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目一番一七号  
電話 ○四八(五五三)二二七二

Emborick  
NETWORK SERVICE PROVIDER  
SAKITAMA-INTERNET

飯田芳幸

会長  
yoshi@sakitama.or.jp  
株式会社 エボリック  
埼玉県行田市北河原七〇五番地  
〒361-0001  
GPSアドレス N: 36°11'25" E: 139°25'40"  
TEL: ○四八―五五七―三三六六(代表)  
FAX: ○四八―五五七―三三四二  
http://www.emborick.co.jp

財団法人忍郷友会

佐藤孝太郎

名誉理事  
〒361-0076 行田市天満三一―十六  
☎ ○四八―五五六―一九〇〇

全国PHP友の会

加藤力也

副会長  
  
〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三二―二九  
TEL ○四八―七七―一五八五  
FAX ○四八―七七―一五八五  
E-mail: show-katou@nifty.com

綿貫守男

〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号

<p><b>小澤企画</b> 各種相談・企画・コンサル</p> <p>代表 小澤誠邦</p> <p>〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二一 TEL(〇四八)五六四一〇一一 FAX(〇四八)五五二一〇五八二</p>	<p>(株)味工房 那のつ</p> <p>代表取締役 阿部秀二郎</p> <p>〒361-0023 埼玉県行田市長野一三三三一一〇 電話 〇四八一五五五一一四五〇</p>	<p>創業 文久二年 伝統の味</p> <p>割烹 魚 豊</p> <p>橋本恭一</p> <p>TEL〇四八一五五三三一一三 FAX〇四八一五五三三一一四</p>	<p>合資会社 青美矢沢商店</p> <p>代表社員 矢澤大和</p> <p>〒361-0073 埼玉県行田市行田二十一二二五 TEL〇四八一五五六一三二二一 FAX〇四八一五五六一三七七四</p>
<p><b>株式会社倉持商店</b> 紺織製品製造本舗・力王たび代理店</p> <p>代表取締役 倉持成一郎</p>  <p>〒361-0022 埼玉県行田市桜町一上二十一四 TEL〇四八一五五六一九一四 FAX〇四八一五五三二三八三</p>	<p>《昭和14年創業》 各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理 有限会社 小笠原ラヂエーター工業所</p> <p>代表取締役 中川邦明</p> <p>〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地 TEL(〇四八)五二一一三三九五(代) FAX(〇四八)五二一一三三八四 自宅TEL(〇四八)五五三〇二七八</p>	<p>株式会社 セティアコーポレーション</p> <p>代表取締役 岩崎安裕</p> <p>〒323-0028 栃木県小山市若木町二一十一一五 TEL〇二八五一一三二一八八三三(代) FAX〇二八五一一三二一三五七七</p>	<p>清善寺住職 松本皓一</p> <p>〒361-0077 埼玉県行田市忍二一八一十八 電話 〇四八一五五六一三六八九</p>
<p><b>渡辺株式会社</b> 常務取締役 渡邊久記</p> <p>(グラフィック事業部)</p> <p>〒361-0077 埼玉県行田市忍一五一十一一〇二 電話 〇四八一五六四一六五二五</p>	<p>株式会社 田島エージエンジニア 東京海上日動火災保険株式会社代理店 東京海上日動あんしん生命保険株式会社</p> <p>代表取締役 田島博夫</p> <p>〒361-0073 埼玉県行田市行田五一一〇スリーハットビル TEL(〇四八)五六四一三三二二 FAX(〇四八)五六四一三三二二 E-mail: miles-hoken@aimagency.co.jp URL: http://www.aimagency.co.jp</p>	<p>三共印刷株式会社</p> <p>代表取締役 大谷純一</p> <p>埼玉県行田市富士見町二一一一三〇 TEL 〇四八一五五六一六二〇一</p>	<p>割烹 和可縮 飯島千裕</p> <p>〒361-0074 埼玉県行田市旭町六二一一 TEL 〇四八一五五四一三三三三八 FAX 〇四八一五五四一三三三三</p>
<p><b>小山商事株式会社</b></p> <p>代表取締役 小山喜一郎</p> <p>〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五一 TEL(〇四八)五五九一四一一二(代) FAX(〇四八)五五九一二五五〇</p>	<p>開山慶長十一年 水戸黄門様ご宿泊のお寺 曹洞宗 龍淵山祥雲寺</p> <p>住職 大西義道</p> <p>〒300-0744 茨城県稲敷市押砂九三二二 電話 〇二九九(七九)〇〇六四 FAX 〇二九九(八六四二)四四三二一 携帯 〇九〇(八六四二)四四三二一</p>	<p>弁護士法人 蔭山法律事務所</p> <p>代表社員 弁護士 蔭山好信</p> <p>〒361-0073 埼玉県行田市行田二一番一三二号 TEL 〇四八一五五四一〇〇〇三 FAX 〇四八一五六四一六六〇〇</p>	<p>〒360-0041 埼玉県熊谷市宮町二丁目一八番地 末広不動産宮町ビル二階・三階 TEL 〇四八一五九九一三〇〇 FAX 〇四八一五九九一三三三〇 E-mail: kageyama@smile.ocn.ne.jp</p>

# 行田市の現勢

平成二十四年十一月一日

## 1 市役所所在地

〒三六一―八六〇一

埼玉県行田市本丸二番五号

TEL〇四八―五五六―一一一

FAX〇四八―五五六―一七六六

## 2 市制施行

昭和二十四年五月三日

## 3 面積

六、七七七km<sup>2</sup>

## 4 人口

八五、九九二人

## 5 世帯数

三三、五五八世帯

## 6 財政

二二六、八億円

## 7 市の機構

市長 工藤 正司

副市長 山崎 明弘

委員 長 岸田 昌久

教育長 中村 猛

## 8 教育委員会

議員定数 二十四名 (無所属)

議長 新井 孝義

副議長 東 美智子

## 9 10 議 会

議長 新井 孝義

副議長 東 美智子

## 11 学 校

大学 一校

専門学校 一校

高等学校 一校

中学校 八校

小学校 十六校

## 12 都市宣言

環境衛生都市宣言

人権尊重都市宣言

平和都市宣言

青色申告の都市宣言

交通安全都市宣言

暴走族追放都市宣言

非核平和都市宣言

## 13 まちづくりの目標

水と緑 個性あふれる文化都市

## 14 産業経済

製造品出荷額 二、五七四億円

(平成二十二年)

商品販売額 二、一七七億円

(平成十九年)

農業粗生産額 四十八億円

(平成十八年)

商店数 九八四店舗

工業事業所数 二二三事業所

(四人以上・平成二十二年)

## 15 公共施設

さきたま史跡の博物館

教育文化センター

郷土博物館 忍城御三階櫓

産業文化会館・はにわ館

総合体育館・総合公園プール

市民プール・総合公園野球場

資料館・公民館 (十六館)

図書館・古代運會館

総合福祉会館・商工センター

風土記の丘さきたま古墳公園

忍城址公園 (忍城御三階櫓)

古代蓮の里公園

行田市郷土博物館・利根大堰

水城公園・東照宮

## 17 観 光 地

## 編集後記

映画「のぼうの城」が大ヒット上映中です。一説には、初日の入り具合で観客動員数がわかるらしく、三〇〇万人は楽に超えるだろうとのこと。それが多いのか少ないのかはわかりませんが、日本国民の四十人に一人は見てくれることになりそうです。

震災の影響で公開が一年延びましたが、十一月二日の公開日前一週間は、TBSテレビの番組や番宣で多く紹介され、行田市民でさえ知らない地元情報もたくさん流される程でした。テレビの影響力というのは物凄く、数年前のB級グルメで前日放送されたテレビ番組のおかげで、行田中が大渋滞に巻き込まれた事を思い出します。

きっと「のぼうの城」を観て様々な思いを持って、行田に足を運ぶ方々も数多く

いらっしやるでしょう。私ごとですが、以前、高倉健主演の映画「鉄道員(ぽっぽや)」を観て、舞台になった北海道の幾寅駅に立った時の感動はひとしおでした。その時の思いを大切に、行田を訪れた方々の期待を裏切ることに無いよう、心から迎え入れたいものです。そしてまるで、シナリオがあるかのように再来年、藩校サミットが行田で開催され、全国のお殿様が行田に結集します。今度の主役は、成田氏から、松平氏に移りますので、二〇一三年は、松平会長の元、郷友会が中心となって、歓迎準備の年となりそうです。

知恵と行動力を出し合い、皆さんで頑張って参りましょう。

エイカ エイカ オー!!

広報委員

大谷 純一





発行者 財団法人 忍郷友会 会長 松平忠昌  
事務局 埼玉県行田市行田五ー一〇  
(十万石スリーハートビル3F)

TEL. 〇四八ー五五六ー九〇〇〇

FAX. 〇四八ー五五六ー九〇〇七

URL/[www.oshi-goyukai.or.jp](http://www.oshi-goyukai.or.jp)

e-mail/[gyouda@oshi-goyukai.or.jp](mailto:gyouda@oshi-goyukai.or.jp)

印刷 三共印刷株式会社

〒三六一ー〇〇二一

埼玉県行田市富士見町二ー一ー三〇

TEL. 〇四八ー五五六ー六二〇一

FAX. 〇四八ー五五六ー六二〇四

